

## 第20回 松尾和弥さん（甲南大学）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第20回目は、松尾和弥さん（甲南大学）にご執筆いただきました。

私は、子ども時代に虐待を受けた人が表情の読み取りに問題を抱えることについて研究しています。その中で、虐待を受けた経験を持つ人は、愛着形成が不安定になるとともに、表情から相手の気持ちを察することが苦手になることが分かっています。例えば、何の感情も表していない表情や別の感情を表している表情を怒っていると捉えてしまったりします。表情から感情を読み取る時に、顔の中でも目やその付近の情報が重要なのですが、虐待を受けた経験のある人は、相手の視線を怖がるようになるため視線を合わせるのが苦手です。そのことで、表情から気持ちを察することが困難なのかもしれません。今後は、どうすれば虐待を受けた人々が表情から相手の気持ちを察することができるようになるのかを調べていきたいと考えています。もしこのような研究に興味のある方がおられましたら、お気軽に下の連絡先に連絡を下さい！

松尾和弥さん（Kazuya MATSUO）

【ご所属】 甲南大学大学院人文科学研究科

【ご連絡先】 mcrsh059@yahoo.co.jp

【ホームページ】 <http://mcrsh059.wix.com/matsuokazuya>

【その他】 上記のような研究を行っていますが、その他に愛着やアトピー、アレキシサイミア、認知症についても研究を行っています。